

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2973200211
法人名	株式会社 メディカル・ケア・コンサルジュ
事業所名	グループホーム ここから王寺町
所在地	奈良県北葛城郡王寺町本町4丁目4番16号 (電話) 0745-31-1571

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年6月5日	評価確定日	平成21年7月10日

【情報提供票より】(平成 21年 4月 30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10人, 非常勤 7人, 常勤換算	8.5人

(2)建物概要

建物構造	木造	
	1階建て	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	24,000円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無(5年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	800 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(4月 30日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	59 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人友誼会奈良友誼会病院・池原クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社メディカル・ケア・コンサルジュが運営する当該ホームは、平屋で事務所を中心に左右にユニットが設けてあり、利用者はホーム内を自由に行き来されています。ホーム裏にある庭では、バーベキューをしたり、家庭菜園で野菜や花を育てたり、犬を飼われ癒しとなっています。職員は、「自分の親を入居させたいホーム作り」を目指しており、生活リハビリを取り入れながら、生活を支えるための援助を徹底されています。利用者本位を第一に自己決定を促し、今までの趣味を大切にしたい日々を過ごせるように支援しています。利用者は居室で手紙を書いたり外出時に撮った写真をアルバムに整理したり、読書をする等、自宅にいるのと同じ状況で自由に毎日を過ごされています。また、地域との付き合いも前向きに取り組み、少しずつ馴染みの関係ができています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題評価については、全体会議や申し送り時に話し合い改善に向けて取り組んでいます。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、全職員に読んでもらい説明し、各ユニットリーダーと管理者が話し合いを持ちまとめました。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	王寺町福祉課職員や家族、ホーム職員などが参加する運営推進会議を3か月に1回、開催しています。ホームから活動内容や利用者状況、今後の予定を報告し、参加者から評価や助言を聞いていますが、なかなか意見が出にくいのが現状です。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に、直接コミュニケーションを取り話しやすい雰囲気而努力しています。また、電話での相談もあり、聞いた事は、すぐに対応し記録に残しています。また、家族の運営推進会議の参加もあります。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入できるように働きかけています。王寺町役場の力を借りて自治会の集まりに参加予定をしています。王寺町文化祭に行く予定をしたり、近隣の方々とは、散歩時や外出時には気軽に挨拶交わし世間話をしたり、野菜をもらったり、ホームからもおすそ分けをする等の関係ができています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基にホームの運営方針を作成しています。その人らしく日々を暮らし、安心できる場所作りが出来るようにとの思いを込めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニットごとの入口に掲示しています。朝礼時には、経営理念を職員で唱和し、「自分の親を入れたいホーム」を目標にサービスの向上に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時より加入できるように働きかけていますが難しい現状があり加入するには至っていません。行政の力も借りながら、自治会の集まりに参加予定をしています。近隣の方とは、散歩時に気軽に話したり野菜やサザエを頂いたり、ホームからもおすそ分けをしたりで、良好な関係ができています。王寺町の文化祭に行く予定をしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、全職員に読んでもらい説明し、リーダーと管理者が話し合いまとめました。全体会議や申し送り時に意見を聞きながら改善に努めています。	○	自己評価票はホームのアピールをするチャンスです。各ユニットごとに職員と話し合い意見を取り入れながら自己評価を作成されてはいかがでしょうか。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	王寺町福祉課職員、家族、ホーム職員などが参加する運営推進会議を3か月に1回、開催しています。活動内容や利用者状況、今後の予定などを報告し評価や助言を頂くこともありサービスの向上に活かしています。	○	地域の方の参加は難しい状況ですが、今後も継続しての働きかけを行い、活発な会議となるように、内容の充実を図られる事が期待されます。行事と一緒に開催する等の企画を検討されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場とは、何でも相談し合える関係を持っています。困難事例や自治会の加入の事などを話し合う等、協力を得ています。また、役場から認知症の資料を貸りに来られることもあります。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話や家族の来訪が多くあり、直接コミュニケーションを取り日々の様子を伝えていきます。金銭管理は、預かり金対応で出納の明細と毎月の請求書を一緒に、法人から送付しています。また、ユニットごとの入口には掲示板を作り、行事の写真などを飾り、来訪時に見てもらっています。	○	利用者担当制を始められたことで、日々の暮らしぶりを来訪時に口頭だけでなく、定期的の手紙やメモでお知らせされてはいかがでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には直接、意見や要望を聞いています。コミュニケーションもよく取れており何でも話して頂いています。聞いたことはすぐに対応し、職員で話し合っています。また、対応したことは、記録に残しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、仕事と休憩できる時間を区別できるように配慮しています。一緒に休憩し話をする時間を持ったり、職場を離れて食事に行ったり、一泊旅行を計画するなど、法人のバックアップ体制も整っています。また、新任職員は、まず、利用者で紹介し、現任の職員について少しずつ馴染んでもらえるようにしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、管理者が希望を聞き、該当する職員に参加してもらっています。参加後は、報告書を書いて資料と共に回覧しています。また、会議の際には伝達研修もしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	王寺町にはグループホームが他にはなく、他の地域にある知り合いのホームを訪問し、情報交換を行ない交流に努めています。今後、もっと多くの情報を得る事でホーム同士の繋がりを大切に取り組んでいきたいと考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間から10日ぐらを目安に体験入居から始めています。その間に家族や利用しているサービス事業者から多くの情報を得ています。他の利用者や職員と一緒に過ごす事で寄り添い少しずつ馴染んでもらえるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に生活することでコミュニケーションを大切に利用者を理解し尊重して何でも話し合える関係作りに努めています。今までしていた家庭菜園などを教えてもらったり、戦争や利用者の生い立ちを聞きながら、一緒に過ごすことで喜怒哀楽も共にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者とかかわりの中で自己決定ができるように支援しています。思いの把握が困難な方には、生活歴から考慮して、常に選択できるように促し、希望や意向に添えるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント表を利用しながら利用者や家族の希望を取り入れ、担当職員の意見を聞きながら介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月から6か月を見直しの期間としています。家族や担当職員、計画作成担当者などが参加するカンファレンスを開催し内容を検討しています。また、状態に変化があったときには随時見直しをしています。介護計画と日々の記録が連動できるような記録の仕方を検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時や家族が行けない通院介助、買い物、外食など利用者ひとり一人の希望や要望に応じて個別の支援をしています。また、訪問理美容も利用しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医を継続されている方や、往診医が2週間に1回、来てもらえることや緊急時にはすぐに診てもらえることを家族に説明し変更している利用者もいます。往診医とは、24時間連携が取れており、いつでも相談ができる体制を整えています。状態の変化や医師からの指示を共有できるように受診記録も作成しています。また、薬剤師との相談や訪問歯科が週に1回あり口腔ケアや義歯調整などに来てもらっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「医療的な処置が必要になったら退居」と説明しています。ホームで出来るだけの支援をしたいと考えており、その時になったら家族やかかりつけ医と話し合いを持ちたいと考えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は、事務所の鍵の掛かるロッカーに保管しています。家族に見てもらえるように介護記録には他の利用者の名前をイニシャルで記載しています。また、言葉使いは、利用者に応じた対応をしています。トイレ誘導や入浴時にはプライバシーに充分配慮したケアを実行しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から睡眠までひとり一人のペースやリズムを大切にしています。掃除や居室で趣味の写真を整理したり、読書や手紙を書いています。また、毎日晩酌を楽しまれたり、信仰している集まりに出かけられるなど利用者の希望に沿った支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を一緒に考えています。配達される食材を職員と一緒に出来ることに備わってもらっています。積極的に手伝われる利用者もおられ楽しみながらしています。また、職員は、利用者と同じものを食べ自然な流れで声掛けし食事介助をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は14:00から16:30ぐらいで週に3回は入浴ができるようにしています。希望があれば、毎日入れるようにしています。また、拒否傾向の利用者には、職員の上手な声掛けやタイミングで入浴してもらっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の野菜切りや調理、後片付け等を役割としたり居室で今までしていた趣味や家庭菜園、水やりを楽しんで行なっています。また、2ユニット合同である毎月の誕生日会や外食、季節の移り変わりが感じられるような外出や、庭で飼っている犬との触れ合いも楽しみとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、毎日の散歩や買い物、ドライブや外食など出来るだけホームだけで過ごすことのないよう希望に沿って出かけています。また、ホームに来ているボランティアが開催する催しにお誘いがあり、出かけることもあります。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前は溝があり交通量も多く危険のため、安全対策や外からの侵入を防ぐため家族に説明し鍵をかけています。外に出かけたい利用者を見かけたら、声掛けし庭に出たり職員が寄り添い一緒に出かけています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自で避難訓練のシミュレーションをしています。消防計画を立て消防署立会いの元、避難訓練を今後予定しています。隣近所の方には協力をお願いしています。	○	消防署との合同の避難訓練とは別に、ホーム独自でも様々な場面を想定しての避難訓練が期待されます。地域との協力は難しいようですが、避難訓練に参加してもらるように声掛けしたり働きかけの継続を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は毎食ごとに記録しています。食事時間以外でも、午前・午後にお茶の時間を作り、一日に1500CCを目安に水分が取れるように支援しています。利用者の嚥下・咀嚼状況に応じた食事を提供しています。また、定期的な血液検査で栄養状態について医師から聞き、栄養士に相談をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るく天井が高く、庭で摘んできた花が活けられています。ソファーに座りゆっくりテレビを見たり、窓から庭や愛犬を見たり出来るようになっています。キッチンからは全体が見渡せ、食事の匂いがわかり家庭的で居心地よく過ごせるように工夫しています。また、感染症対策で空気清浄機を備えています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には利用者の表札や小物が飾れるようなスペースが設けてあり、お花やぬいぐるみなどを置いています。筆筒やテレビ、椅子、鏡台、信仰しているマリア様像などを持ち込んでもらい家族と相談しながら居心地よく過ごせるようにしています。		